

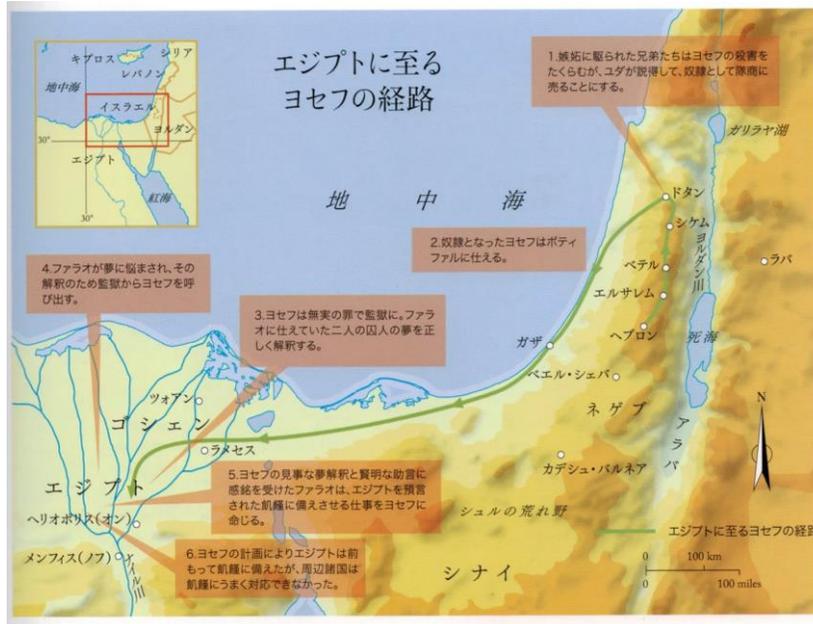
弟ベニヤミンと再会して、胸が熱くなり別室で泣いたヨセフ。ヨセフの家でもてなされて、兄弟達は食事の時を満喫したことでした。

1. エジプトを出て (1～5節)

- ①袋に食糧と銀を (1) 「さて、ヨセフは家の管理者に命じて言った。『あの人々の袋を彼らに運べるだけの食糧で満たし、おのおのの銀を彼らの袋の口に入れておけ。』」ヨセフは家の管理者に、兄弟達の袋にできるだけ食糧を詰め、銀を入れておけという命令を出したのです。
- ②銀の杯を (2) 「また、私の杯、あの銀の杯を一番年下の者の袋の口に、穀物の代金といっしょに入れておけ。』彼はヨセフの言いつけどおりにした。」一番下の弟(ベニヤミン)の袋の中には、まじないに使う銀の杯を入れておけというのです。何が起こるのだろうか、どきどきさせられる命令です。側近は言われる通りにしました。
- ③出発と追跡 (3-5) 「明け方、人々はろばといっしょに送り出された。彼らが町を出てまだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは家の管理者に言った。『さあ、あの人々のあとを追え。追いついた彼らに、“なぜ、あなたがたは悪をもって善に報いるのか。これは、私の主人が、これで飲み、また、これでいつもまじないをしておられるのではないか。あなたがたのしたことは悪らつだ”というのだ』。カナンに帰るのには早い方が良いのです。早朝に彼らはろばに荷物を背負わせて出発しました。ところが、ヨセフはそれほど時間が経たないうちに、管理者に彼らを追うことを命ずるのです。そして、追いついたなら、「この恩知らず！」あなたがたのしたことは見逃せない。何といても、その銀の杯は主人がまじないに使うものなのだからと責めます。

2. 見つかった銀の杯 (6～13節)

- ①追いついて (6-7) 「彼は彼らに追いついて、このことばを彼らに告げた。すると、彼らは言った。『あなたさまは、なぜそのようなことをおっしゃるのですか。しもべどもがそんなことをするなどとは、とんでもないことです』」側近の管理人は、追いつくと、言われた通りに告げます。兄弟達は事態を飲み込めずに言います。「どうしてそんなことをおっしゃるのですか。言われるようなことは決して致しません！」
- ②盗んだりはいしません (8-9) 「私たちが、袋の口から見つけた銀でさえ、カナンの地からあなたのもとへ返しに来たではありませんか。どうしてあなたのご主人の家から銀や金を盗んだりいたしましょう。しもべどものうちのだれからでも、それが見つかった者は殺してください。そして私たちもまた、ご主人の奴隷となりましょう。」「あなたがご存知のように、前回に間違っ入っていた銀もお返しにあがりました。尊敬しておりますご主人様の家の金銀を盗むことなど、毛頭もないことです。もし見つかったら幾重にも罰して下さい。また、私



たちはあなた様がたの奴隷になりましょう。」

- ③ベニヤミンの袋から (10-13) 「彼は言った。『**今度も、あなたがたの言うことはもっともだが、それが見つかった者は、私の奴隷となり、他の者は無罪としよう。**』そこで、彼らは急いで自分の袋を地に降ろし、おのおのその袋を開いた。彼は年長の者から調べ始めて年下の者で終わった。ところがその杯はベニヤミンの袋から見つかった。そこで彼らは着物を引き裂き、おのおのろばに荷を負わせて町に引き返した。」管理人は穏やかに言います。「杯が見つかった者は奴隷に、他の者は無罪に」と。そして、ルベンから始めて順番にその袋を調べます。十番目までは問題なし。ところが、こともあろうに末のベニヤミンの袋から杯が見つかってしまったのです。悲しみと失望の表現として、兄弟達は着物を引き裂いて、ヨセフの待つ町へと引き返したのです。

3. ヨセフの前に改めて出る兄弟たち (14~17 節)

- ①まだそこに (14) 「ユダと兄弟たちがヨセフの家に入って行ったとき、**ヨセフはまだそこにいた。彼らはヨセフの前で顔を地に伏せた。**」ユダは今回の訪問に際し、父親を説得した本人であり、いわば代表でした。彼らがヨセフの家に入って行ったとき、ヨセフはまだ自宅にいました。そこで兄弟達は改めて、ヨセフの前でひれ伏したのです。
- ②全員をあなたの奴隷に (15-16) 「**ヨセフは彼らに言った。『あなたがたのしたこのしわざは、何だ。私のような者はまじないをするということを知らなかったのか。』** ユダが答えた。『**私たちはあなたさまに何を申せましょう。何の申し開きができるでしょうか。また何と言って弁解することができますでしょうか。神がしもべどもの咎をあばかれたのです。今このとおり、私たちも、そして杯を持っているのを見つかった者も、あなたさまの奴隷となりましょう。』**」ヨセフは唯一神を信じていましたから、実際はまじないをしなかったでしょう。しかし、兄弟たちを試すために、まじないに使う杯を材料として使ったのです。「あなた方はなんということをしたのだ！」と責められれば、言い逃れはできません。杯があったのは確かです。「もはや何も申し開きはいたしません。弁解もできません。全体で責任をとります。見つかった者だけでなく、全員をあなたの奴隷にしてください」とユダは述べました。
- ③杯を持っていた者が (17) 「**しかし、ヨセフは言った。『そんなことはとんでもないことだ。杯を持っているのを見つかった者だけが、私の奴隷となればよい。ほかのあなたがたは安心して父のもとへ帰るがよい。』**」すると、宰相ヨセフは、全体責任には否定的で、杯を持っていた者だけが、奴隷となるようにと述べ、他の者達は父親の所へ帰ることを勧めます。兄弟達はうれしくありません。いや、他の者ならともかくも、ベニヤミンについては、連れて帰らなければ父

親が絶望することでしょう。であれば、ベニヤミン一人を残して帰る事は絶対にできなかったのです。

《結論》

兄弟達にまたしても試練がやってきました。食糧も調達できました。お父さんとの約束であるベニヤミンを無事に連れて帰るという懸案も果たせそうです。帰り路について、一安心しているさなかです。ことわざには「好事魔多し」があります。彼らは、エジプトの宰相の家に招かれてごちそうにあずかるという、考えられない待遇にあずかりました。ある面では有頂天になった直後のことです。後ろから何やら追手がやって来たかと思うと、なんとあのヨセフ側近の管理者一行でした。管理者が云うには、不正があったようなので、荷物を調べるといふわけです。そして、検査してみると、選りに選ってベニヤミンの荷物から宰相ヨセフの銀の杯が見つかったのです。彼らの与り知らないことでありましたが、出て来たのは事実です。もはや観念するしかありません。ヨセフの前に引き出され、彼からも厳しくとがめられました。ユダは兄弟を代表して、「何の申し開きができますでしょうか。何と言って弁解することができますでしょうか。神がしもべどもの咎をあばかれたのです」(16 節) と述べました。

ヨセフはどうしてこんなに、手の込んだ仕掛けをしたのでしょうか。ベニヤミンに対する思いもあったでしょう。しかし、それだけではないでしょう。兄達達の気持ちや信仰を確かめたかったのではないのでしょうか。前回に続いて、今回も兄弟達の心の底にある思いを見たかったのでしょうか。ユダの告白を聞いて、ヨセフはようやくにして兄弟達への絆を確認していたことでしょうか。こんな記事を読みながら、聖書を読む私たちが「あの人の信仰を確かめ、それを正すために、少し懲らしめてやろう」等と思ったらどうでしょう。それはとても傲慢なことだといわなければなりません。今ここで、ヨセフはそうしないではいられなかったのです。兄弟達が真に神の前に出るために、主はヨセフの思いにも働きかけられて、兄弟間に真の赦しと回復を与えようとしてくださっているのではないのでしょうか。

ともあれ、今朝の聖書箇所時点で、兄弟達の落ち込みはどれほどだったでしょう。どん底に落とされたような気持ちだったことでしょうか。しかし、そこにまで至ってようやく彼らは、かつて自分たちが兄弟であるヨセフに敵意をもって隊商に売りはらったという、大きな罪咎を見つめさせられたのです。もう少し深めて言えば、そこに象徴される自分たちの神を侮る罪を彼らは見つめさせられる時となったのです。そのようなステップに至って、試練は本当の恵みへと近づいてくるのです。「悩む者よ。とく立ちて、恵みの座に来たれや。天の力に癒しえぬ、悲しみは地にあらじ」(讚美歌 399) とありますが、主の前に進んでいけば、乗り越えられない試練、癒されない悲しみはないのです(第一コリント 10:13)。誰も試練をのぞみません。しかし、試練には遭遇します。その時こそ、

あなたが主の前に出る時です。自らの姿を示される時です。そして、キリストを知る時です。「神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすみません。」(詩篇 51:17)